

初等部1・2年 英語 ことばの発表「はらぺこあおむし」

齋藤 恵美 鮫島 道恵

今年度の勉強報告会の大きなテーマとして、「ことば」と「木」が掲げられていた。1・2年生は、「ことば」の発表をする事に決めた。

今回、2つの大きな挑戦をした。1つは、「英語」の発表。もうひとつは、2学年合同での発表である。母国語を中心として、外国語を取り入れた発表は、初等部として初めての事だった。英語の授業を共に作り上げているラボ教育センターの増田先生と協力しながら進めた。初等部に入学してすぐに英語の授業を経験している1・2年の児童は、楽しみながら意欲的に授業に励んでいた。その様子を見て、是非英語の発表をしたいと考えた。又、2学年合同の発表も、初の試みだった。異学年との関わりの中では、自然と2年生が1年生を引っ張って練習していく姿が見られた。絵本作りは美術、母音の練習では国語など、様々な教科の要素を取り入れ、学習を深めていく事ができた。身体表現をまじえながら、元気いっぱいことばの発表を行った。

I. はじめに

初等部の外国語教育は、5年前からラボ教育センターと協力して行っている。全学年共通して、日本語と英語を含めた「ことば」の力を育む事をめざし、劇活動や歌を通して英語に親しむ事を目的としている。各学年の学習目標を定めており、高学年は、仲間との共同作業を通して母語（日本語）を相対化するための外国語活動を行っている。1・2年生は、外国語としての英語を楽しみながら、聞こえたままの音を声に出す事を目標としている。そのため、発表に向け、日本語は母音をはっきりと発音し、英語は喃語で発表する事をめざして練習を重ねた。

身体表現は、もともとあるものを提示するのではなく、子どもたちが言葉を発する中で自然と身体を動かして作り上げていく。最初は、「The Fruits Song（フルーツソング）」に出てくる自分の好きな果物を各グループに分かれて表現し、見せ合った。フルーツをどう表現するか、よく話し合っ決めていく。平面的に作るグループもあれば、立体的な果物が出来上がっているグループもある。「はらぺこあおむし」の各場面の身体表現も、気の済むまで話し合いをし、形が決まっていた。出された案を2年生が上手にまとめていく。1年生の表現がいいと思うと取り入れる。学年間で協力して見事な身体表現が出来上がっていった。

II. 報告会までの学習

2学期初めから、木曜5時間目を1・2学年合同授業の時間とし、勉強報告会に向けた練習を始めた。初回の合同授業の冒頭に、2年生が英語歌「Seven Steps」を歌って聞かせる事から始まった。

英語の授業も、予定より多く時間数を取り、ほぼ合同で進めた。1・2学年全員で一体感を持って作り上げていく事ができた。

以下に、授業でしてきた事を挙げる。

- (1) 「フルーツソング」の発表に向けて
 - ・好きな果物のグループに分かれ、絵を描く。
 - ・グループ毎に身体で表現する。
 - ・組み分けをし、繰り返し歌の練習をする。
 - ・音楽教師に伴奏をしてもらい、3回ほど練習した。



(2)「はらぺこあおむし」の発表に向けて

- ・お話の中に出てくる登場人物のペアを探すゲームをする。このゲームを楽しみながらする事を通し、物語に興味を持つよう工夫した。
- ・世界に1冊の自分だけの「日本語」の絵本を作る。(4回)
- ・登場人物の心情や場面の様子を思い描き、日本語で読み取っていく。国語の授業や家でのおさらいの中で
- ・励み表をつける。CDを聞いた回数分マスに色を塗っていき、きれいなちょうちょを完成させていく。
- ・各組で1日1回以上CDをかけ、家でもできる限り聞いてきて、お話を丸ごと覚える。
 - ・11月初めに、台詞の割り振り決めをした。1・2年生のペアが決まる。
 - ・母音・子音を読む練習をした。1・2年のペアでなかよし勉強をした。鏡を使って口の動きを見合い、徹底的に発声強化の練習を積んだ。
 - ・各教室に前半、後半の半数にわかれて母音の口を大きく開けて発声する練習をした。
 - ・11月中旬に、「サラミを食べた事がない」という声が一年生から上がったため、あおむしが食べたもの(カップケーキ、ピクルス、サラミ、ペロペロキャンディー)を実際に食べてみるひみつの勉強を行った。あおむしの気持ちになり、食べた時にどう感じたかをペア同士で話し合った。「あおむしは、こんなにおいしいものを食べていたんだね。」「こんなにたくさん食べたらふとっちょになるよね。」等と話す姿が見られた。
 - ・11月後半から、美術教師の指導のもと、舞台の中心に置く大きな絵本の作成をする。一人ひとり作った絵本の絵をもとにし、アクリル絵の具を使って作り上げた。1・2年合同の半数にわかれ、発表と並行して計4時間の授業を使って作り上げた。
 - ・身体表現を作った。決定に至るまで、意見交換を重ねながら工夫していった。
 - ・小ホールでの練習を重ねた後、体育館のステージで練習を行った。母音の口をしっかり開けて大きな声で発声する事や、舞台の上で身

体表現をするには、お客様にどう見せたいかを工夫していった。撮影した動画を観て、発表時の姿勢や声の出し方をどうすればいいか、意見を出し合った。



III. 報告の内容

①歌「フルーツソング」

Oranges Apples Pears and Banana
Pineapples watermelons cherries and grapes
What do you like?
I like orange.
What do you like?
I like banana.
(他のフルーツが登場して繰り返し歌う)

英語のみで歌う。自分たちが書いたフルーツの絵を頭上に掲げ、歌う。矢野学園長と中村部長に好きな果物を聞くインタビューをまじえて歌う。

②ことばの発表「はらぺこあおむし」

全員 The Very Hungry Caterpillar
はらぺこあおむし

2人ずつペアになって英語・日本語の順で台詞を言う。

最後は、「あ!ちょうちょ。あおむしがきれいなちょうになりました。」で全員思い思いのちょうちょになって舞台上を動きまわり、終わり。

1・2年生のペアになってことばのリレー形式で発表する。英語と日本語両方で台詞を言う。舞台中央に置いた大きな絵本をめくりながら、身体表

現をまじえて発表する。

IV. 報告会を終えて

まとめの授業より 一部抜粋

- ・あいうえおの口でできた。
- ・すごく楽しかったけれど、難しいところもあった。
- ・サラミとかカップケーキを食べました。私は、サラミを初めて食べました。サラミってこういう味なんだなと思いました。いい授業になってよかったです。

その他、1・2年生のペアとの感想が多くあった。特に、1年生の感想には、「2年生が優しく教えてくれた」「2年生と本気で一生懸命練習して、すごくよく息が合って緊張しなかった」等、2年生がリードして発表を作り上げていった事が伺える感想が多かった。身体表現では、1年生の意見を素直に聞いて取り入れていこうとする姿も見られた。お互い意見を出し合いながら取り組む事で達成感を得られたのだろう。



V. 終わりに

1・2年生の児童にとっては、初めての勉強報告会であった。本番は緊張している様子が見られたが、全員揃って元気いっぱい発表できた。大きな達成感を得て、自信につながる機会になったと思う。1つの発表を作り上げていくためには、地道な努力が必要な事も、身をもって実感できただろう。

よりよい発表に近づけていくために、児童自身が知恵とアイデアを振り絞って出し合っていく過

程に成長を感じた。

楽しく取り組む姿が印象に残った。今後の生活にも、大いに活かして行ってほしい。

(文責：齋藤恵美)

言葉を獲得するということ

～英語の授業の様子から～

『はらぺこあおむし』のCDを聞いて発音練習をしていた時、ある児童が、cupcake を“カップケーキ”と日本語読みの発音をした。「本当にそう聞こえるか」と同じところを何度もCDで繰り返して聞かせたが、そのように発音する。その時、友達が「ちがうよ。“カップケーキ”と自分が聞こえるように発音してみせた。すると“カップケーキ”と発音していた児童が（おや）という表情をし「あ、“カップケーキ”と自分の発音を改めた。この様に友達同士で、英語や日本語を聞き、互いに発音を確かめ合う場面が何度も見られた。皆と勉強し気づき合い学びを深めることができた。

この発表の『はらぺこあおむし』の物語は、先にもある通り英語の喃語で語って発表できればよいという前提で練習を行っていた。しかし、家庭や学校で繰り返しCDを聞いたにもかかわらず、11月下旬になってもその喃語がほとんどの児童から出てこなかった。ところが英語の先生が児童に一对一で生の声で英語の物語を読んで下さったところ、つい先ほどまで全く言葉を発することができなかった児童たちが英語の発音ができるようになったのである。対面して目と目を合わせながら発音練習したことで、耳だけでなく目からも情報を得たのであろう。

生の声がもたらす口の動き、表情、声の温もり、空気の振動といったものが、児童たちの五感へ働きかけたのではないだろうか。言葉の獲得というのは、無機質なCDでは到底伝わらない、人から人へこそ伝わるものだと実感した。たくさんCDを聴いて準備できていたこともあるが、喃語が出てきたきっかけになったことに違いはない。

さらに後日、この物語を担当が英語で読み聞かせたところ児童は大喜び。それ以降、意欲的な取り組みを見せるようになった。身近な者の話しかけは、学習意欲を高めることに繋がると感じた。

初めての試みにいろいろな方法で取り組み私自

身学ぶことが多い報告会であった。

鮫島 道恵